

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11242

研究課題名（和文）健康・医療情報を活用した「健康経営」の効果測定の分析モデルの開発

研究課題名（英文）Development of an analytical model for measuring the effectiveness of "health and productivity management" using health and medical information

研究代表者

津野 陽子 (Tsunno, Yoko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：50584009

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：従業員の医療・健康の問題を経営課題と捉え、経営戦略に位置付ける健康経営が推進されている。日本では健康経営優良法人として健康経営を実践している企業等を顕彰する認定制度により、社会的にも評価を受ける環境が整備されている。しかし、健康経営に取り組んだ効果測定やその指標が定まっていな。本研究において、組織の健康経営の効果測定の取り組みを評価する指標とアウトカム指標を探索した。さらに、従業員視点での健康経営の評価でもある組織の健康文化を捉える指標を開発し、その有用性を検証した。健康文化は健康リスクの改善を促進し、生産性維持・向上につながることを示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

健康経営の取り組みを促進する際に、本研究成果による健康経営促進要因の健康文化の指標が有用であると考えられる。さらに、健康経営の効果検証の検討は、すでに健康経営に取り組んでいる組織にとっても有力なエビデンスを持って健康経営のPDCAサイクルを回していくことに寄与すると考える。

研究成果の概要（英文）：Health and productivity management is being promoted as a management strategy that considers the medical and health issues of employees as management issues. In Japan, companies that practice health and productivity management have come to be recognized by society through the certification system as H&PM thru award program. However, the measurement of the effects of health management and its indicators have not been established. In this study, we explored indicators and outcome measures to evaluate the efforts of organizations to measure the effectiveness of their health and productivity management. Furthermore, we developed an indicator to measure the degree of fostering a "Culture of Health" in the organization, which is also an evaluation of health and productivity management from the employee perspective, and verified its usefulness. It was shown that culture of health promotes improvement of health risks and leads to maintenance and improvement of productivity.

研究分野：産業保健

キーワード：健康経営 データヘルス 産業保健 生産性 健康リスク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

健康経営とは、従業員の医療・健康問題を経営課題と捉え、健康と生産性の両方を同時に行うマネジメント (Health and Productivity Management) の手法である。組織の健康課題を可視化し健康リスクを評価する手法および健康リスクと生産性の関連は国内外において研究が蓄積されてきている。さらに、日本では健康経営優良法人として健康経営を実践している企業等を顕彰する認定制度により、社会的にも評価を受ける環境が整備されてきている。しかし、健康経営に取り組んだ効果をどのように測定するのか、何をもって効果があると言えるか、健康経営の取り組みが本格的に開始されてから約5年経過し、学術的にも実践的にも検討課題である。

健康経営を推進する上で、職場における「健康文化 (culture of health)」が注目されている。健康リスクを改善し生産性維持・向上に寄与することを促進するのは、単に介入プログラムの内容によるのではなく、健康文化の醸成が重要であるとし、健康文化は健康経営の促進要因ともいえることができる。先行研究においても健康や生産性に寄与する健康文化を捉える指標は定まっていなかった。

本研究では、組織における健康経営の効果はどのように測定するか、健康経営を促進する「culture」の指標は何かを研究の問いとした。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、健康経営度調査の情報により、健康経営の効果検証のためのアウトカム指標の探索と、健康経営の取り組み項目とアウトカム指標の関連性の検討を行い有用な健康経営の取り組み指標の抽出を行うことを目的とした。

(2) 文献レビューを基に作成した健康文化の指標により、健康経営優良法人の認定の有無による健康文化の醸成度健康文化と健康リスクと生産性との関連性を検討した。

3. 研究の方法

(1) 健康経営の効果検証のためのアウトカム指標の探索

データ開示の申請により取得した2020年度健康経営度調査大規模法人部門 (回答数2523社) のデータを対象とした。分析対象は、認定法人ホワイト500が498件、認定法人ホワイト500以外1296件、認定法人以外729件であり、認定状況3群別に分析を行った。アウトカム指標と設定した項目の比較分析および健康経営の取り組み状況とアウトカム指標の関連性の検討を実施した。

(2) 健康文化指標と生産性の関連

調査会社が有する一般就労者パネルを用いたWeb調査を実施した。対象者を健康経営優良法人認定の有無の2群で従業員各1000名の回答を目標とし実施した。計2060件の回答を得、1999件を分析対象とした。調査項目は、健康文化の評価指標20項目、プレゼンティーズム、アブセンティーズム、健康リスク等である。

4. 研究成果

(1) 健康経営の効果検証のためのアウトカム指標の探索

健康経営優良法人の認定状況3群別比較の結果、健康リスク項目では「適性体重維持者率」「喫煙率」「喫煙率変化割合2019-2016年度」「運動習慣者比率」「睡眠により十分な休養割合」「血圧リスク者率」「血糖リスク者割合」に有意差があり、ホワイト500ほど良い結果であった。労働時間に関する項目は、「平均月間総実労働時間」はホワイト500が最も短く、「平均年次有給休暇取得率・日数」ともにホワイト500が他の2群より高かった。「法定外労働月45時間超100人・月当たり」と「法定外労働月80時間超100人・月当たり」はホワイト500が他の2群より少なかった。メンタルヘルス不調、メンタルヘルス以外の疾患のどちらも「年間長期欠勤・休職者率、回答時点復帰者率、年間退職者率」のいずれの項目でも3群に有意差は見られなかった。

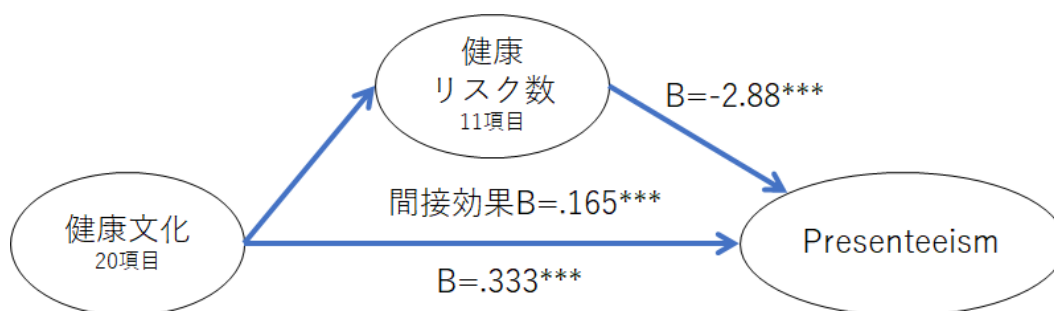
認定状況別の分析で有意だった項目をアウトカム指標とし、取り組み状況との相関分析を行った。取り組み状況は、「経営トップの取り組み」「管理職の取り組み」「従業員との協議」「データ活用」「活性度の確認」「就業と疾病 (メンタル以外) の両立支援」「食生活支援・参加率」「運動支援・参加率」「女性の健康の取り組み対象・取り組み内容」を分析項目とした。取り組み状況の多くの項目で健康リスク項目と相関があったが、「経営トップの取り組み」は運動習慣者比率のみと有意な関連があった。取り組み状況の項目ほぼ全てと平均月間総実労働時間と平均年次有給休暇取得率・日数は有意な関連があった。

健康経営の効果検証のアウトカム指標の探索において、3年間の変化量も指標としたが認定な

し群のほうが改善率が良い傾向があり、アウトカム指標の精査は今後の課題である。また、健康経営の取り組み状況で相関があった項目は多数あり、取り組んでいる企業は多くの項目に取り組んでおり、この項目に取り組んでいればよいという項目があるわけではなかった。健康経営度調査のデータは年代別人数や医療費など任意回答項目が多くあり、研究データとして制約がある。一方で、各取り組みにおいて相関の強い項目を見ると一歩踏み込んだ取り組み内容であることが示唆された。

(2)健康文化指標と生産性の関連

健康文化の得点 (Range=0-20) は、健康経営優良法人に認定されている企業の従業員 (14.0 ± 5.5) のほうが認定を受けていない企業の従業員 (7.4 ± 6.0) より有意に高かった。認定を受けている大規模法人部門と中小規模部門での得点に有意差はなかった。健康経営優良法人認定の有無は、健康文化の評価指標 20 項目全てで有意な差があった。一方で、健康経営優良法人認定の有無によるプレゼンティーズム、アブセンティーズムには有意差はみられなかった。健康文化と健康リスク、プレゼンティーズムの関連性を検討するため、重回帰分析による媒介分析を行った結果、健康文化はプレゼンティーズムへの直接的関連も有意であるが、健康リスクを介してプレゼンティーズムへ関連する間接効果も有意であることが示された。



※ Multiple regression analysis adjusted for age and gender.

図 健康文化のプレゼンティーズムへの直接効果・間接効果

健康経営優良法人認定の有無による健康文化の醸成度の違いが明らかとなり、健康経営の取り組みの深度を表していることが捉えることができる。健康経営優良法人認定は、健康経営度調査を通じ経営層や組織の視点から健康経営の取り組みが評価される制度であるが、本研究の結果、健康経営優良法人認定は従業員視点においても健康文化の醸成度が高いことが明らかになった。従業員に健康経営の取り組みがどのくらい浸透しているのか評価していくためにも従業員による健康文化の主観的評価指標は有用であることが示唆された。また、健康文化は直接的に生産性指標のプレゼンティーズムに関連するだけでなく、健康リスクの改善を促し、プレゼンティーズム向上につながる間接効果の可能性も示された。

(引用文献)

津野陽子, 渋谷克彦, 尾形裕也. (2023). 健康経営度調査結果による健康経営の効果検証指標の探索. *産業衛生学雑誌*, 65(臨増), 463.

津野陽子, 尾形裕也, 渋谷克彦, 高橋由香. (2021). 職場における「健康文化」と健康経営優良法人の認定の有無の関連性. *産業衛生学雑誌*, 63(臨増), 358.

高橋由香, 津野陽子, 大森純子. (2022). 健康経営における「職場における健康文化」に関する評価指標の検討. *産業衛生学雑誌*, 64(5), 225-237.

<https://doi.org/10.1539/sangyoeisei.2021-029-B>

高橋由香, 津野陽子, 大森純子. (2021). 健康経営における「健康的な職場文化」の指標化に向けた文献レビューによる概念整理. *日本健康教育学会誌*, 29(1), 3-15.

<https://doi.org/10.11260/kenkokoiku.29.3>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高橋 由香、津野 陽子、大森 純子	4. 巻 64
2. 論文標題 E健康経営における「職場における健康文化」に関する評価指標の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業衛生学雑誌	6. 最初と最後の頁 225 ~ 237
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1539/sangyoeisei.2021-029-B	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 津野陽子	4. 巻 60(12)
2. 論文標題 健康経営と生産性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 証券アナリストジャーナル	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 由香、津野 陽子、大森 純子	4. 巻 29
2. 論文標題 健康経営における「健康的な職場文化」の指標化に向けた文献レビューによる概念整理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本健康教育学会誌	6. 最初と最後の頁 3 ~ 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11260/kenkokyoiku.29.3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Amano Hoichi、Fukuda Yoshiharu、Shibuya Katsuhiko、Ozaki Akihiko、Tabuchi Takahiro	4. 巻 18
2. 論文標題 Factors Associated with the Work Engagement of Employees Working from Home during the COVID-19 Pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 10495 ~ 10495
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph181910495	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渋谷 克彦	4. 巻 84
2. 論文標題 特集 がん検診-見えてきた問題にどう取り組む? 職域におけるがん検診の位置付けと多様性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 156 ~ 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1401209344	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 津野陽子, 渋谷克彦, 尾形裕也
2. 発表標題 健康経営度調査結果による健康経営の効果検証指標の探索
3. 学会等名 第96回日本産業衛生学会, Web開催, 現地(宇都宮)開催
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 米澤, 春風, 津野, 陽子
2. 発表標題 COVID-19流行時の医療従事者欠勤者数およびアブセンティーズムの推定
3. 学会等名 第61回日本医療・病院管理学会総会, Web開催, 現地(東京)開催
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 杉本九実, 石倉恭子, 熊谷麻紀, 金森悟, 渋谷克彦, 津田洋子, 福田吉治
2. 発表標題 参加型学習を取り入れた看護学部における産業保健教育の実践
3. 学会等名 第96回日本産業衛生学会, Web開催, 現地(宇都宮)開催
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 津野陽子, 尾形裕也, 渋谷克彦, 高橋由香
2. 発表標題 職場における「健康文化」と健康経営優良法人の認定の有無の関連性
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会, Web開催, 現地(松本)開催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木唯奈, 津野陽子
2. 発表標題 プレゼンテーション対策検討のための文献レビュー
3. 学会等名 第94回日本産業衛生学会, Web開催, 現地(松本)開催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津野陽子
2. 発表標題 公募シンポジウム「医療機関における健康経営の推進：データに基づくマネジメント」医療機関における健康経営データ分析 健康リスクと生産性指標の関連
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会総会, Web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 津野陽子, 高橋由香, 大森純子
2. 発表標題 健康経営における「健康的な職場文化」の評価指標の検討
3. 学会等名 第93回日本産業衛生学会, 誌上開催, Web開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋由香、津野陽子、大森純子
2. 発表標題 健康経営を促進する「健康的な職場文化」の指標に関する文献レビュー
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会、高知
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渋谷 克彦 (Shibuya Katsuhiko) (80752162)	帝京大学・公私立大学の部局等・講師 (32643)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	尾形 裕也 (Ogata Hiroya)	九州大学名誉教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	リール第1大学			